

セブンイレブン・マレーシア・ホールディングス(SEVE) ポイントサービスやネット通販に強い薬局大手ケアリン グ・ファーマシーとの相乗効果でデジタル化が進展へ

マレーシア | 食品・医薬品小売 | 業績フォロー

BLOOMBERG SEM:MK | REUTERS SEVE.KL

- 2020/12期2Q(4-6月)は、売上高が前年同期比10.4%増、売上総利益が同5.2%減、営業利益が同5.2%減、純利益が同92.9%減だった。
- 薬局チェーンの買収が増収に寄与したが、活動制限令(MCO)下の店舗閉鎖・営業時間短縮、および金融費用増が利益面で響いた。
- アプリを使ったポイントサービスやネット通販に強いケアリング・ファーマシーとの相乗効果によりデジタル化の進展が期待される。

What is the news?

8/26発表の2020/12期2Q(4-6月)は、売上高が前年同期比10.4%増の6.49億MYR、売上総利益が同5.2%減の1.72億MYR、営業利益が同32.5%減の2,180万MYR、純利益が同92.9%減の103万MYR。大手薬局チェーンの**ケアリング・ファーマシー・グループ**の買収効果により増収となったが、3/18から5/3まで施行された「活動制限令(MCO)」下で商業施設内の店舗はすべて閉鎖され、その他の店舗も営業時間が短縮されたこと、および金融費用が嵩んだことが利益面で響いた。ただし、6/10以降の「回復のための活動制限令(RMCO)」下では、営業時間の短縮が続くものの、すべての店舗が営業再開した。

セグメント別の業績は以下の通り。①コンビニエンスストア事業は、売上高が前年同期比13.3%減の5.10億MYR、純利益が428万MYR。セグメントの変更に伴い純利益の前年同期記載は行われていない。タバコが同22.7%の増収だった他は全て減収となった。②ケアリング・ファーマシー・グループ株式の40%取得に伴いセグメント化された薬局事業は、売上高が1.39億MYR、純利益が580万MYRとなった。

How do we view this?

マレーシア政府によるRMCOは今年年末まで延長されることとなり、営業時間の短縮が続くほか店舗内の顧客同士のソーシャル・ディスタンス(社会的距離)の要請による営業効率の悪化が続くことが見込まれるが、オンラインなどの他の販売チャンネルを開拓することに注力するほか、従来からの中核戦略であるOperations Excellence、Cost Management、Commercial Innovationを引き続き追求していく方針である。

また、同社が40%の株式を取得したケアリング・ファーマシー・グループはマレーシアに132店の薬局を展開しており、店舗数は2024年までに200店に拡大する見通しである。ケアリングファーマシーはモバイルアプリを介したポイントサービスが人気のドラッグストアのブランドであり、ネット通販事業が堅調で収益が安定して伸びている。主力のコンビニ事業のネット通販との相乗効果により、同社グループ全体のデジタル化による収益拡大が期待されよう。2020/12 通期市場予想は、売上高が前期比9.7%増の25.90億MYR、当期利益が同5.5%増の5,700万MYRである。

業績推移

※参考レート 1MYR=25.22円

事業年度	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12F	2021/12F
売上高(百万MYR)	2,187	2,217	2,361	2,590	2,769
当期利益(百万MYR)	50	51	54	57	63
EPS(MYR)	0.04	0.04	0.05	0.05	0.05
PER(倍)	33.25	33.25	26.60	26.60	26.60
BPS(MYR)	0.06	0.08	0.09	0.10	0.11
PBR(倍)	22.17	16.63	14.78	13.30	12.09
配当(MYR)	0.03	0.02	0.02	0.04	0.04
配当利回り(%)	1.96	1.77	1.80	3.01	3.01

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(MYR) **0.03** (予想はBloomberg)
終値(MYR) **1.33** 2020/9/28

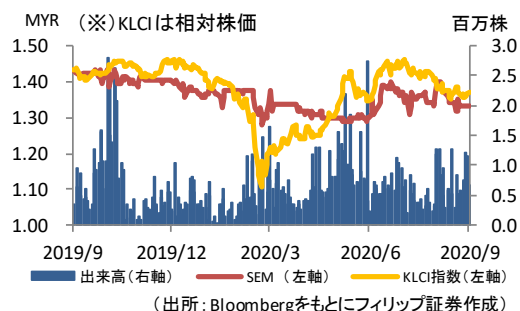
会社概要

1984年設立のマレーシア最大のコンビニエンスストアチェーン。産業コングロマリット大手のベルジャヤ・グループ傘下の企業。「セブンイレブン」の店舗名で1984年に第1号店をクアラルンプールで出店。2019/11現在、マレーシアで2,240店舗超を展開し、1日当たりの顧客数は90万人である。Slurpee やBig Gulpといった同社独自のブランドを含め、2,200以上の製品ラインアップを提供する。

また、店舗で提供するサービスは、請求書支払いサービス、携帯電話リロードカードやIDD/SDD、交通系ICカードの「タッチ・アンド・ゴー」リロード、インターネットゲームのスターターパック販売、インクカートリッジの補充、フォトコピー、ファックス、ATM、および近隣地域社会のための掲示板など多岐に及ぶ。

企業データ (2020/9/29)

ベータ値 0.48
時価総額(百万MYR) 1,520
企業価値=EV(百万MYR) 2,605
3か月平均売買代金(百万MYR) 0.6



主要株主 (2020/9)

(%)

1. Tan Chee Yioun	25.92
2. CLASSIC UNION GROUP LTD	18.41
3. TRUE ASCEND SDN	10.60

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。